

令和元年度 調査業務 『世界自然遺産登録を見据えた地域づくりのための行動計画策定』

奄美群島においては、世界自然遺産登録という群島の自立的発展のための千載一遇の好機を迎えようとしており、群島内外からの注目が集まる中、自然保護や地域振興などに向けた活動の機運が高まっている。この好機を一過性のものとしないうちにも、奄美の自然資源を損なうことなく次世代に引き継ぐ取り組みを定着させるとともに、次世代の定住促進に資する魅力的な雇用を創出する必要がある。

このような状況を踏まえ、自然保護活動と両立したエコツーリズムの推進（ガイド人材育成、DMOとの連動等）に関し、官民の関係主体との役割分担と、それぞれの主体が実施する事項と時期とを群島全体で整理した上で、行動計画を策定する。

留意点① 既存計画等との整合

現在、奄美群島における自然保護、エコツーリズムの推進を含む既存計画等が存在する。行動計画の策定にあたっては、既存計画等との整合が取れているものとなるよう、留意しなければならない。

<参考：既存計画等の一例>

既存計画等の名称	策定主体
世界自然遺産推薦地 包括的管理計画	国：環境省、林野庁、文化庁 県：鹿児島県、沖縄県 市町村：奄美大島5市町村、徳之島3町、 国頭村、大宜味村、東村、竹富町
奄美群島国立公園 公園計画	環境省
奄美群島エコツーリズム推進全体構想	奄美群島エコツーリズム推進協議会
奄美群島自然共生プラン	鹿児島県、奄美群島12市町村
奄美群島成長戦略ビジョン	奄美群島12市町村
奄美大島生物多様性地域戦略	奄美大島5市町村

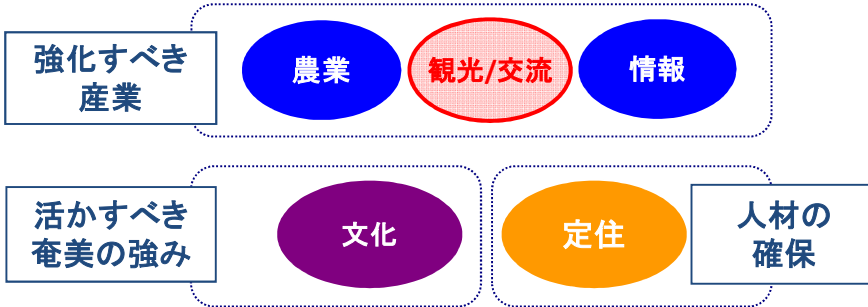
留意点② 成長戦略プロジェクト推進会議との整合

国土交通省国土政策局において、世界自然遺産登録を間近に控えた奄美群島を取り巻く状況を鑑み、地域の取組の推進支援等を目的とした『成長戦略プロジェクト推進会議』を設置。

本調査の遂行にあたっては、当会議上の議論も踏まえ、必要に応じて施策へ反映させた上で、行動計画を策定しなければならない。

本調査の必要性

～ビジョン実現のための重点三分野+二分野～



世界自然遺産登録により、知名度向上、入込客数増加が見込まれている。

左記の五分野のうち、『観光／交流』の取り組みの加速化により、他四分野への波及効果が期待出来る。

本調査業務を、『観光／交流』の取り組みの加速化のためのステップとして位置付け、官民の役割分担や、課題認識を共有し、受入体制の整備を官民主体間で連動させることで、遺産登録効果を継続して享受するための地域の取り組みを推進する。

取組内容（例）	期待される波及効果	関連するビジョン実施計画上のプロジェクト（例）
地域生活に着目した滞在型観光商品造成	地域コミュニティの活性化 →地域へのUIターン促進 (定住) →地域文化継承者の確保 (文化)	・観光人材育成プロジェクト (龍郷町) 地域資源PRと体験活動受入人材育成 ・徳之島ツーリズムプロジェクト (徳之島町) ガイド育成、モデルコース作成 島料理店マップ作成、外国人用パンフ作成
	地域食材の確保 →六次産業化 (農業) →群島外への販路拡大 (〃)	・喜界町地方創生関連プロジェクト (喜界町) 特産品生産者の販路拡大への助成 ・条件不利性改善事業 (群島全域) 加工品の移出コスト支援
	独自の生活文化の魅力の発信 →地理的条件不利性にとらわれない 情報通信事業者 (フリーランス含む) の誘致促進 (情報・定住)	・情報産業の振興プロジェクト (奄美市) スキルアップ助成 フリーランス誘致支援

本調査業務により、『観光／交流』の取り組みを加速化させ、他四分野への波及効果をもたらし、世界自然遺産登録の効果を継続して享受するための地域の取り組みを推進する。

全体スケジュール

6月20日 第1回推進会議

7月 第1回WG
取組事項・課題の精査

10月 第2回WG
ロードマップ（第1案）
流動シナリオを用いた議論

1月 第3回WG
ロードマップ原案の作成

3月 第2回推進会議
ロードマップ策定

テーマ② スケジュール

調査業務受託者により、
▶ 既存の計画の整理
▶ 関係団体へのヒアリング
を実施し、現状を整理。

9月 テーマ② 第1回 WG開催
関係委員及び地元関係者を対象に
諸計画の取組状況報告・意見交換

調査業務受託者により、
▶ WGの意見の整理
▶ WGの意見を踏まえた関係団体との調整
を実施。

12月 テーマ② 第2回 WG開催
ロードマップ原案の作成

調査業務受託者による最終調整を実施。